



作品リスト
List of Works

TOP MUSEUM

記憶：リメンブランス – 現代写真・映像の表現から

会場構成

Zone Map

2024年3月1日—6月9日

東京都写真美術館 2階展示室

REMEMBRANCE BEYOND IMAGE

March 1– June 9, 2024

Tokyo Photographic Art Museum

2F Galley

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛 | 東京都写真美術館支援会員

助成 |  Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター

Organized by Tokyo Photographic Art Museum operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture

Supported by the Corporate Membership of the Tokyo Photographic Art Museum

Sponsored by The Finnish Institute in Japan

凡例 | Explanatory Notes

- ・作品データは、シリーズ名 / 作品名、制作年、技法 / 素材、所蔵の順で記した。
- ・所蔵の記載のないものは、すべて作家蔵。
- ・ゼラチン・シルバー・プリントはすべてD.O.P. (Developing out paper)。
- ・米田知子作品のうち、2015 / 2023年は、2015年に撮影、2023年に制作されたことを示す。

- ・ Information on the works are listed in the following order: series title/work title, year of production, technique/materials and collection.
- ・ All works are from the artist's collection unless otherwise indicated.
- ・ All gelatin silver prints are D.O.P.(Developing out paper).
- ・ Among Tomoko Yoneda's works, the notation 2015/2023 indicates that the work was photographed in 2015 and produced in 2023.
- ・ Names of Japanese artists in English are written in the order of first name and surname.

執筆：関昭郎 東京都写真美術館学芸員

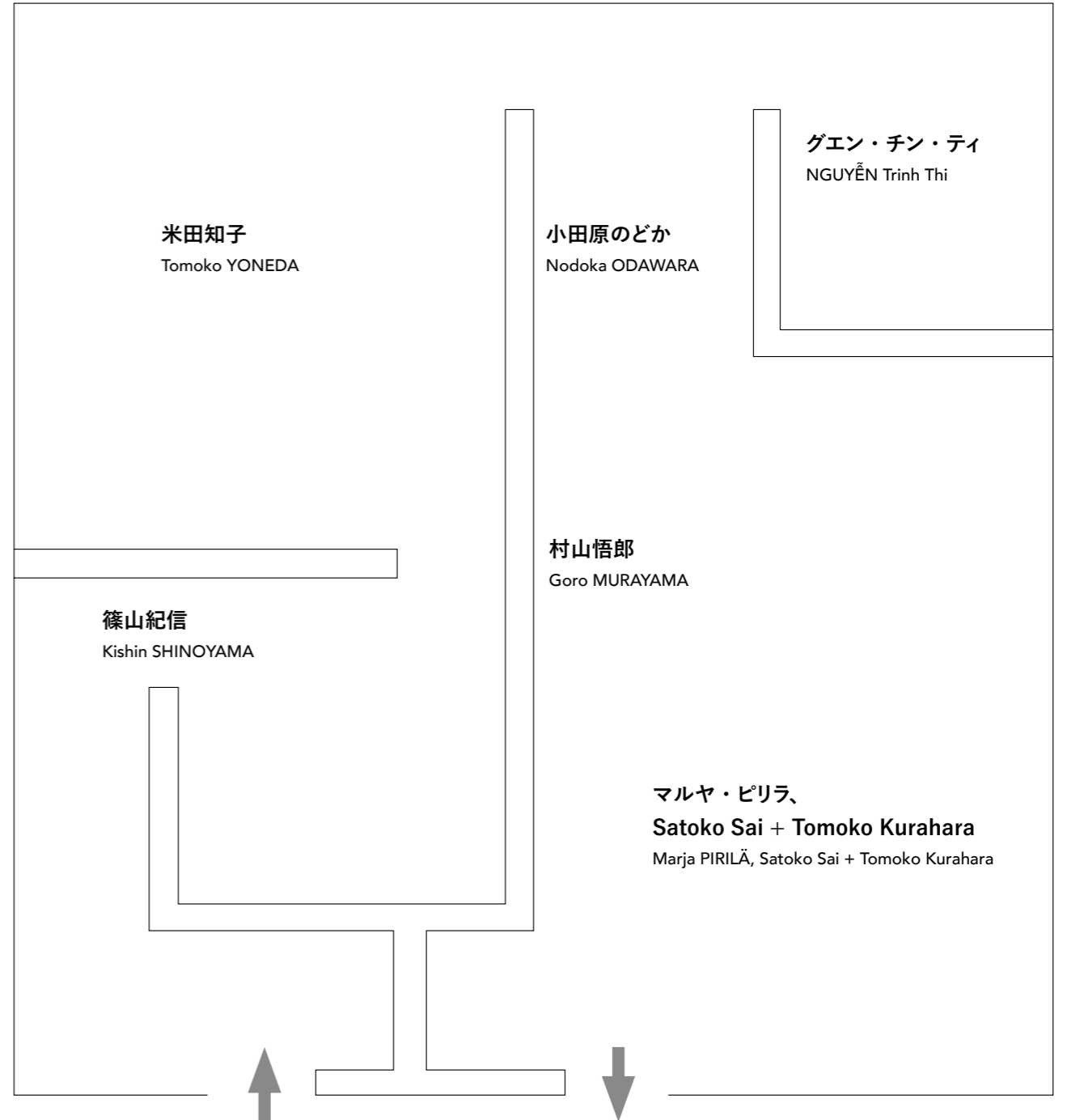
和英翻訳：ベンジャー桂

デザイン：志賀良和

Text by Akio Seki, Curator, Tokyo Photographic Art Museum.

Japanese-English Translation by Kei BENCER

Designed by Yoshikazu SHIGA_Sprout Curation



篠山紀信

写真には個人の記憶を広く同時代の記憶へと転換させる力があります。ここでは1960年代から、写真界のみならず日本の新しい時代の牽引者として活躍した篠山紀信(1940 – 2024年)による3シリーズを紹介します。

《誕生日》は、1976年の雑誌『アサヒカメラ』での連載「決闘写真論」で発表されました。同連載が単行本化されたときに、短い文章が付け加えられました。

「ぼくの誕生日は、一九四〇年十二月三日。母親は、プレゼントはくれなかったが、毎年この日になると街の写真館へぼくをつれてゆき、記念写真を撮ってくれた」

篠山紀信・中平卓馬『決闘写真論』1977年、朝日新聞社刊より
〈家〉は、同じ1976年にヴェネチア・ビエンナーレ日本館における個展での出品作です。ここでは家そのものよりも、そこで見られる「人間の生活のにおいや手あか」（前掲書）を捉えようとしています。2011年の東日本大震災に取材した〈ATOKATA〉においても、同様に住んでいた人たちに向けた視点が貫かれています。

- 1–12 《誕生日》2歳から13歳までの12点のイメージ、1976年、ゼラチン・シルバー・プリント
- 13–15 〈家〉岩手県遠野市、1974年、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 16–17 〈家〉岩手県遠野市、1974年、銀色素漂白方式印画
- 18 〈家〉山形県上市市、1972年、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 19–20 〈家〉秋田県横手市、1975年、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 21–22 〈家〉石川県珠洲市、1974年、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 23–25 〈家〉石川県羽咋郡、1972–1975年頃、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 26–27 〈家〉鹿児島県川辺郡、1975年、銀色素漂白方式印画、東京都写真美術館蔵
- 28–29 〈家〉福岡県田川市、1972年、銀色素漂白方式印画
- 30–34 〈ATOKATA〉、2011年、発色現像方式印画

米田知子

ロンドンを拠点に、イデオロギーの衝突等、国内外の壮大なテーマから作品制作を続ける米田知子(1965年生まれ)。当館の所蔵作品である〈サハリン島〉と第二次世界大戦を軸とした〈Scene〉、そして韓国と北朝鮮との軍事境界線である北緯38度線を挟んだ非武装地帯(Korean Demilitarized Zone)に取材した初公開作品を含む〈DMZ〉という3つのシリーズを紹介します。樺太島とも呼ばれるサハリン島は、帝政ロシア時代の流刑地であり、また、ニヴヒ、ウィルタ、アイヌら少数民族たちの故郷。そして、日露戦争後に北緯50度線以南が日本領となった地でした。米田は、作品のなかで、3者それぞれからの視点を提示しています。

米田は、歴史の軌跡は、目に見えるものだけでなく、「無形にも平然と存在する」と言います。生命感あふれる植物を写したなかに、鉄条網や「지뢰(地雷)」と書かれた赤い札が入っていることで、違和感が生まれています。一方、船上の結婚式やアイスリンクの光景や鏡を手にした若者たちの姿は、一見すると平穏に見えます。しかし、両者とも、それらがどのような歴史があった場所かを知ることで、風景は違ったものに見えるようになります。

- 35 〈サハリン島〉北緯50度、旧国境、2012年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 36 〈サハリン島〉座礁した日本の軍艦、タタール海峡、2012年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 37 〈サハリン島〉帝政ロシア時代、囚人が掘ったトンネルの入口、“3人兄弟の岩”をながめて、アレクサンドロフスク・サハリンスキー、2012年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 38 〈Scene〉ウェディングー中国から北朝鮮を臨む国境の川、丹東、2007年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 39 〈Scene〉アイスリンクー日本占領時代、南満州鉄道の付属地だった炭坑のまち、撫順、2007年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 40 〈Scene〉村ー北朝鮮と韓国の西部最前線を望む、2006年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 41 〈Scene〉プラットフォームー伊藤博文暗殺現場、ハルビン・中国、2007年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵
- 42 〈DMZ〉絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国）I、2015年、発色現像方式印画
- 43 〈DMZ〉絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国）II、2015年発色現像方式印画
- 44 〈DMZ〉境界線の向こうに絡まる二本の松（北朝鮮と韓国の北東最前線・ゴセオン）、2015年、発色現像方式印画
- 45 〈DMZ〉Mine - DMZ I、2015/2023年、発色現像方式印画
- 46 〈DMZ〉（未）完成の風景 I、2015/2023年、発色現像方式印画
- 47 〈DMZ〉（未）完成の風景 II、2015/ 2023年、発色現像方式印画
- 48 〈DMZ〉兵士と花、2015/ 2023年、発色現像方式印画

グエン・チン・ティ

2007年に「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が国連総会で採択されるなど、私たちはこれまでの考え方をあらためて、新しい時代に進む大きな転換点にいます。グエン・チン・ティ（1973年生まれ）は、2009年に発表されたベトナム初の原発建設計画をきっかけに、長い歴史を持つチャム人とその文化の存続について思考をめぐらします。そこから、宗教的な建築物に乗せられた《自由の女神像》のような、フランスの植民地時代の記憶、現在ま

で残るベトナム戦争の傷跡など、ベトナムの歴史が重ね合わされます。《バンドゥランガからの手紙》は、2021年にはハン・ネフケンズ財団の「Moving Image Commission 2021」に選定され、「第15回ドクメンタ」（ドイツ・カッセル、2022年）に招待されるなど、国際的に活躍するグエンの重要作品で、2015–2016年のジュ・ド・ポーム国立美術館、CAP ボルドー現代美術館(フランス)の個展で発表されました。

- 49 《バンドゥランガからの手紙》、2015年、シングル = チャンネル・ビデオ、35分、東京都写真美術館蔵

小田原のどか

彫刻家であり、評論家としても活動する小田原のどか(1985年生まれ)のテキストによる作品。当館で所蔵されている写真史家梅本真雄の関連資料のなかの写真から、日本における写真の祖である上野彦馬の胸像が、第二次世界大戦中に失われ、戦後に再建されるまでの物語をきっかけとして、「写真」と「彫刻」について考察します。

- 50 小田原のどか《像の記憶と手ざわり：上野彦馬の写真、彫刻、墓、記念碑》、2024年、テキスト
- 51 作者不詳《〈長崎写真の始祖上野彦馬像〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 52 作者不詳《〈上野彦馬翁のトリック写真〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 53 作者不詳《〈上野彦馬翁胸像〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 54 作者不詳《〈上野彦馬像(老年)〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 55 作者不詳《〈晩年の上野彦馬胸像〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 56 作者不詳《〈上野彦馬翁銅像再建除幕式記念〉》、1951年、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵
- 57 作者不詳《〈上野彦馬翁の墓(長崎 皓台寺山上)〉》、制作年不詳、ゼラチン・シルバー・プリント、東京都写真美術館蔵

村山悟郎

村山悟郎は、自然を模倣する絵画とは距離を置き、コンピュータや自然界のルールなどと共通する法則性から、絵画を作り出すアプローチを試みています。

一方で、村山は同様の関心から、コンピュータと結びついて、監視や認知のためのデバイスとしての役割が大きくなってきたカメラを積極的に使っています。本作では、仮に作家が千年後まで制作を続けるとしたら、どのような作品を描いているのだろうかをシミュレートするために、自身で、最終的には1,000枚ドローイングを描くことを目指し、その一筆ごとをカメラで記録し、それらを、Qosmo, Inc.の創造力と技術の協力を得て、AIに学習させ、新たな表現を生み出すを試みます。

また、この試みに関連し、池上高志とAlternative Machine はこれ

までの仮想生命体を用いた研究・実験の成果から、進化について考察します。

- 58 《千年後のドローイングのために - 人間・人工知能・人工生命》、2023- 2024年、ミクストメディア
- 《データのバロックー機械学習のための千のドローイング》、2023-2024年紙にアクリル、鉄系顔料

マルヤ・ピリラ、Satoko Sai + Tomoko Kurahara

マルヤ・ピリラ(1975年生まれ)は、1996年からカメラ・オブスキラの技術を使って作品を制作しています。本作は、屋外の風景を、カメラ・オブスキラの原理で室内に取り入れて撮影されたポートレートです。モデルは、フィンランドの都市トゥルクに暮らす9名の高齢者たちです。崔聡子(1976年生まれ)と蔵原智子(1980年生まれ)による作陶ユニットSatoko Sai + Tomoko Kurahara は、モデルのアルバムからの写真を陶器に転写しました。そこからはモデルとなった一人ひとりが、時代に大きな影響を受けながらも、多様性のある人生を過ごしたことが分かります。

- 〈インナー・ランドスケープス、トゥルク〉

- マルヤ・ピリラ
- 59 《カメラ・オブスクラ/ルース》、2011年、インクジェット・プリント
- 61 《カメラ・オブスクラ/イングリッド》、2011年、インクジェット・プリント
- 63 《カメラ・オブスクラ/ヴィエノ》、2011年、2点のインクジェット・プリント
- 65 《カメラ・オブスクラ/エヴァ&エーロ》、2011年、インクジェット・プリント
- 68 《カメラ・オブスクラ/レーナ》、2011年、インクジェット・プリント
- 70 《カメラ・オブスクラ/ウラ》、2011年、インクジェット・プリント
- 72 《カメラ・オブスクラ/ベッカ》、2011年、インクジェット・プリント
- 74 《カメラ・オブスクラ/マッティ》、2011年、インクジェット・プリント
- 76 《インナー・ランドスケープス》、2011年、シングル・チャンネル・ビデオ、50分37秒

- Satoko Sai + Tomoko Kurahara
- 60 《ルース》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、内側に施釉
- 62 《イングリッド》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、外側に施釉
- 64 《ヴィエノ》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、施釉
- 66 《エヴァ》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、施釉
- 67 《エーロ》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、施釉
- 69 《レーナ》、2011年、陶器 手びねり成形、象嵌、下絵転写、やきしめ
- 71 《ウラ》、2011年、陶器 型押し成形、下絵転写、内側に施釉
- 73 《ベッカ》、2011年、陶器 手びねり成形、下絵転写、やきしめ
- 75 《マッティ》、2011年、陶器 手びねり成形、下絵転写、施釉

Kishin SHINOYAMA

Photography has the power to transform personal memories into a broader collective memory of the times. This section introduces three series of work by Kishin Shinoyama (1940–2024), who since the 1960s has been not only a leading figure in the world of photography, but also a forerunner of the new age. The three series include “Birthday,” composed of his own commemorative photographs; “Meaning of House,” which was exhibited at the Venice Biennale in 1976; and “ATOKATA,” a reportage of the 2011 Great East Japan Earthquake.

- 1–12 *Bithday*, 12 images from 2 years birthday to 13 years birthday, gelatin silver print, 1976
- 13–15 “Meaning of the House”, *Tono City, Iwate Prefecture*, 1974, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 16–17 “Meaning of the House”, *Tono City, Iwate Prefecture*, 1974, silver dye bleach print
- 18 “Meaning of the House”, *Kaminoyama City, Yamagata Prefecture*, 1972, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 19–20 “Meaning of the House”, *Yokote City, Akita Prefecture*, 1975, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 21–22 “Meaning of the House”, *Suzu City, Ishikawa Prefecture*, 1974, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 23–25 “Meaning of the House”, *Hakui County, Ishikawa Prefecture*, c. 1972–1975, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 26–27 “Meaning of the House” *Kawanabe County, Kagoshima Prefecture*, 1975, silver dye bleach print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 28–29 “Meaning of the House”, *Tagawa County, Fukuoka Prefecture*, 1972, silver dye bleach print
- 30–34 *ATOKATA*, 2011, chromogenic print

Tomoko YONEDA

Is it possible to discern the traces of history within everyday landscapes? Based in London, Tomoko Yoneda (b.1965) continues to create works that engage with domestic and international themes of epic scale, such as conflicts and clashes in ideology. This section presents a reconstruction of three series of work, “The Island of Sakhalin,” “Scene,” and “DMZ.” Such works evoke within us distant and invisible borders.

- 35 “The Island of Sakhalin”, *The 50th Parallel: Former border between Russia and Japan*, 2012, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 36 “The Island of Sakhalin”, *Run aground Japanese warship; Strails of Tartar*, 2012, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum

- 37 “The Island of Sakhalin”, *Looking at “The Three Brothers” rocks by a prisoner - dug tunnel: Alexandovsk-Sakhalinsky*, 2012, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 38 “Scene”, *Wedding – View of the wedding party on the river that divides North Korea and China, Dandong, China*, 2007, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 39 “Scene”, *Ice Rink – View of a mining town that was part of the South Manchurian Railway zone during the Japanese occupation, Fushun, China*, 2007, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 40 “Scene”, *Village – View of the Western front-line between North Korea and South Korea*, 2006, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 41 “Scene”, *Platform – Location where Resident-General of Korea and former Prime Minister of Japan, Ito Hirobumi was assassinated by An Jung-guen, a Korean independent activist, Harbin, China*, 2007, chromogenic print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 42 “DMZ”, *Entwined barbwire and flowers (near DMZ, Cheorwon, South Korea) I*, 2015, chromogenic print
- 43 “DMZ”, *Entwined barbwire and flowers (near DMZ, Cheorwon, South Korea) II*, 2015, chromogenic print
- 44 “DMZ”, *Two entwined pines beyond the border fence (the northeastern front line, Goseong, South Korea)*, 2015, chromogenic print
- 45 “DMZ”, *Mine-DMZ I*, 2015 / 2023, chromogenic print
- 46 “DMZ”, *(In)complete Landscape I*, 2015 / 2023, chromogenic print
- 47 “DMZ”, *(In)complete Landscape II*, 2015 / 2023, chromogenic print
- 48 “DMZ”, *Soldier and Flower*, 2015 / 2023, chromogenic print

NGUYỄN Trinh Thi

The announcement in 2009 by the Vietnamese government of plans to build the nation’s first nuclear power plants, had served as an impetus for contemplating the extensive history of the Cham people and the preservation of their culture. *Letters from Panduranga* is an important work by internationally acclaimed filmmaker Nguyễn Trinh Thi (b.1973), presented at the Galerie nationale du Jeu de Paume (France) in 2015, as well as other international venues.

- 49 *Letters from Panduranga*, 2015, single-channel video, 35min, Collection of Tokyo Photographic Art Museum

Nodoka ODAWARA

This is a text-based work by sculptor and critic Nodoka Odawara (b.1985). The artist considers the relationship between ‘photography’ and ‘sculpture’ through the story regarding the bust (statue) of Hikoma Ueno, the founder of photography in Japan, which was lost during World War II and later reconstructed, drawing reference to related materials belonging to photography historian Sadao Umemoto.

- 50 *The Textures of Image and Memory: The Photographs, Sculptures, Grave, and Monument of Hikoma Ueno*, 2024, text
- 51 Photographer unknown, *Photograph of Hikoma Ueno, Founding Father of Photography in Nagasaki*, Date unknown. gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 52 Photographer unknown, *Trick Photograph of the Elderly Hikoma Ueno*, Date unknown, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 53 Photographer unknown, *Bust (Statue) of the Elderly Hikoma Ueno*, Date unknown, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 54 Photographer unknown, *Photograph of Hikoma Ueno (Elderly Years)*, Date unknown, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 55 Photographer unknown, *Bust (Statue) of Hikoma Ueno in His Later Years*, Date unknown, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 56 Photographer unknown, *Commemorative Photograph of the Unveiling Ceremony for the Reconstruction of the Bronze Statue of Hikoma Ueno in His Later Years*, 1951, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum
- 57 Photographer unknown, *The Grave of Hikoma Ueno (In the Grounds of Kotajji Temple, Nagasaki)*, Date unknown, gelatin silver print, Collection of Tokyo Photographic Art Museum

Goro MURAYAMA

If the artist continues to create works 1,000 years from now, what kind of works will he create? Goro Murayama tasks himself with producing 1,000 drawings, and with the aid of Qosmo, Inc.’s creativity and technology, uses AI-learned data of his works to predict what his drawings may look like a millennial into the future.

In relation to this, Takashi Ikegami and Alternative Machine considers the issue of evolution based on their research and experiments using artificial life forms.

- 58 *For millennial future drawings - Human, Artificial Intelligence and Artificial Life*, 2023- 2024,

mixed media

Data Baroque - A Thousand Drawings for Machine Learning, 2023-2024, acrylic medium with Iron pigments on paper

Marja PIRILÄ, Satoko Sai + Tomoko Kurahara

These portraits were taken using the camera obscura technique to project the outside scenery indoors. The subjects of the portraits are nine elderly people living in the Finnish city of Turku. The ceramic works are screen-printed with photographs from photo albums belonging to the respective subjects. From the works it is possible to see that each of these figures have led diverse lives while being greatly impacted by the vicissitudes of the times.

Inner Landscapes, Turku

Marja PIRILÄ

- 59 *Camera obscura / Ruth*, 2011, archival pigment print
- 61 *Camera obscura / Ingrid*, 2011, archival pigment print
- 63 *Camera obscura / Vieno*, 2011, two archival pigment prints
- 65 *Camera obscura / Eva & Eero*, 2011, archival pigment print
- 68 *Camera obscura / Leena*, 2011, archival pigment print
- 70 *Camera obscura / Ulla*, 2011, archival pigment print
- 72 *Camera obscura / Pekka*, 2011, archival pigment print
- 74 *Camera obscura / Matti*, 2011, archival pigment print
- 76 *Inner Landscapes, 2011*, single-channel video, 50 min. 37 sec.

Satoko Sai + Tomoko Kurahara

- 60 *Ruth*, 2011, press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed inside
- 62 *Ingrid*, 2011. press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed outside
- 64 *Vieno*, 2011, press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed
- 66 *Eva*, 2011, press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed
- 67 *Eero*, 2011, press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed
- 69 *Leena*, 2011, hand-bult ceramics, screen-printed with under-glaze colors. unglazed
- 71 *Ulla*, 2011, press-moulded ceramics, screen-printed with under-glaze colors. glazed inside
- 73 *Pekka*, 2011, hand-bult ceramics, screen-printed with under-glaze colors. unglazed
- 75 *Matti*, 2011, hand-built ceramics, screen-printed with under-glaze colors, glazed

発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2024
©2024 Tokyo Photographic Art Museum
operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM